

議 事 概 要 書

会議名称	令和3年度 第3回社会教育委員会議（臨時会）及び教育委員との懇談
日 時	令和3年11月25日（木）視察：午後1時～午後3時15分 会議：午後3時30分～午後5時00分
場 所	会議：伊那市生涯学習センター 5階研修室 / 視察：手良～東春近
出席者	伊那市社会教育委員：10名 教育委員：3名（1名欠席） 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、市誌編纂室長、生涯学習係長、担当
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
<p>1 開会（教育次長）</p> <p>2 あいさつ</p> <p>教育長：本日は、教育委員と社会教育委員の懇談ということでご出席いただいております、大変貴重な機会であるのでよろしくお願ひしたい。少し、教育的な営みで広くとらえさせていただき、お話をさせていただければと思う。先日から、三宅島の小学校5年生、6年生が伊那を訪ねてきている。三宅島と旧高遠町が友好親善の盟約を結んで昨年で50年になる。毎年、三宅島の小学校5年生の子供たちが訪問してくれて、だいたい10年くらい経つが、昨年、あらゆる交流行事が出来ずに今年へ延期になり、まだ難しいと思ったが、昨年来られなかった6年生の子供たち、併せて30人の子供たちが、伊那へ入って、今日、歴史博物館で絵島の囲み屋敷を見学した。それから外へ出て、想いを遂げるのでできなかった男女を偲んで建てたとも言われる比翼塚というのがある。昭和30年代の始めに、高遠町の教育委員会が建てたのだが、その一番上の所の土は、三宅島の土を使わせていただいたと聞いていた。今日、三宅島の小学生と一緒に、先日、伊那市の市議団が三宅島を訪問した際に持ち帰った土を、みんなで、ひとつまみずつ、30人の子供たちが、そこへその土を置いてくれて、60年の営みなのだが、そのようにしながら、少しずつ厚みが増していく。そして、この子たちに友好親善というものを、次の時代に繋いでいってもらえるのかなと、思いながら参加させていただいた。</p> <p>教育的な文化的な取組みとして、社会教育委員の皆様のイベント参加報告を見させていただいても、市民の皆様の視点で、本当に丁寧にお取組みいただき、まとめていただいております、ありがたいことであると思ひながら見させていただいている。本日は、委員の皆様決して多くない、貴重な機会である。懇談、また意見交換をさせていただくといことで、それぞれにとって有意義な機会にしたい。どうぞよろしく、お願ひしたい。</p> <p>会長：本日は教育委員の皆様にもご臨席を賜りましての第3回社会教育委員会議である。私たちは、この会議に先立ちまして、手良の常光寺、そして、東春近の春近神社を視察させていただき、伊那市に点在している文化や歴史を学ばせていただき、ここに参っ</p>	

たところである。

今年も残すところ一ヶ月余りとなったが、振り返ってみると、今年は例年になく猛暑続きの日々であったが、10月中旬を境に、一転して大変寒い日々となり、そのまま秋がなく冬に突入かなと不安になったところであるが、穏やかな秋が訪れ、ほっとしたところである。また、私たちは、昨年1月以来、新型コロナウイルス感染症に翻弄されてきたが、ここへきて、全国的にも感染者は激減し、また、長野県においても本月12日以降、感染者の発表はないが、まだ油断はできないなど感じているところである。今後、感染に配慮しながらそれぞれの公民館活動、また、地域に生涯学習活動が活発に展開されることを願うばかりである。本日は、委員の皆様方が、日頃の活動の中で感じている疑問点や、また、各種の生涯学習活動を通じて課題等を、情報提供していただき、委員の皆様それぞれが明日からの活動に活かしていただく場となったら幸いである。本日はお世話になるが、よろしくお願ひしたい。

3 自己紹介：教育委員⇒社会教育委員⇒事務局の順に自己紹介

4 令和3年度社会教育委員の実践活動について（進行：会長）

○イベント等参加報告、地域の話題（各委員から報告）

- ・令和3年度地域ぐるみで子供を育てるフォーラム
- ・第2回宇宙の学校「ホバークラフトをつくろう」
- ・高遠町公民館講座「高遠石工の石仏を巡る」
- ・長谷地区生涯学習講演会「あきらめない心」
- ・わんぱく親子塾

5 懇談（進行：会長）

「社会教育委員、社会教育・生涯学習活動について」

(1) 社会教育委員の存在意義、役割、活動について

(係長から趣旨説明)

<懇談>

教育委員：イベント参加報告書を読ませていただき、それぞれいきいきと参加された様子が伝わってきて、大変貴重な資料だと思う。今の、社会教育委員の役割の部分だが、社会教育委員の感想の部分で、イベントリストは非常に重要な役割を果たしていて、社会教育委員の活動する範囲を決めているリストだということが分かった。これをもとに参加するだけでは、少し受け身的な感じになっているという感想だが、事務局側に質問だが、社会教育は学校教育以外のすべてを含むわけだが、その中には、伊那市が、公民館や教育委員会が行うものもあれば、民間のものもありとあらゆるものがある。社会教育委員がカバーし、教育委員会に助言するものは、市が行うものだけなのか、市民が学ぶ機会という意味では、民間のものも広く興味をもつべきなのか、どちらになるのか。

課長：ありがとうございます。結論から申すと、社会教育は広い分野に渡っているので、委員の言う後段の部分になる。市で社会教育に関する事業を展開しているが、それだけでは社会教育という広い意味を補っていくのは不可能かと思う。社会教育委員の皆様

には、いろいろな分野からお集まりいただいて、各地区の代表ということで活動をしていただいている。そのような市で行う事業以外でも広く一般に社会教育に関するようなことのご助言や意見をこういった場でいただければありがたいと思う。

教育委員：そうだとすれば、イベントリストの中に市が行っているものではないけれど、市で行う生涯学習の施策に参考になるような、出かけて行って報告してほしいといった、市が行うものではないイベント等をリストアップして、盛り込むようにするなど、そのような議論があってもよいのではないか。

係長：ありがとうございます。おっしゃるとおりであると思う。しかし、民間の情報まではなかなか集まりにくい。現在は、市の関係機関に情報提供いただいて、載せさせていただいている。

しかし、生涯学習課の方へ民間の情報も入ってくるので、そのようなイベントについては、情報提供をするといったことで案内をさせていただいている。

課長：すべてのイベントをリスト化するのは非常に困難であり、難しい。例えば、民間のイベントへ委員が行ってきたことを、このような場で、こういったところが良かった、こういうところを工夫しているなどの意見を出し合っていただだけでも、かなり幅が広がると思う。リスト化は出来るとはなかなか言えないが、広くそのようなイベントへ参加した情報は、いただければありがたい。

教育委員：民間の団体がやっていて、すごくいい内容だが、お金もなく人もいないため、すごく大事だが広がりを見せていなくて、本当は市でやるべきなのではないか、といったイベントは、そのようなものがあればだが、リストに増やすべきものであると思う。

社会教育委員：過去に、地域の囃し保存会というものがある。自分たちが会費を払い運営している。地域の祭りだとか、そういうところで苦勞している。私も関係している、婦人会だとか、いろいろなところで、この間の秋まつりでも、お店を出し、多くの人 came。それから、伝承会というものもあり、あれも自分たちのボランティアである。そういうことをやっている。今年やっと活動が始まったが、今までは参加したら、必ず社会教育委員の立場で報告書を出している。教育委員の言われたことは、そういう部分のこともあると思う。このリストの中でも参加しないものもある。だいたい自分が係わっている行事の方が参加報告は意義があると思う。予算も欲しいし、ビデオで撮って、保存したいということもあるが、そういったことを、今、言ってくれたので、今後、報告出来たら行う。

社会教育委員：これは、生涯学習関係のイベントリストである。彼らの管轄している部分について、社会教育委員として、こんな係り方という形で、このイベントをみてくださいというかわり方を書いてある。だからこれは社会教育委員に与えられた事務局からの指示だと理解していいと思う。さらに、どういうことを見てほしいかという細かいところまで書いてある。運営方法についてお気づきの点があれば、助言をいただきたいとか、社会教育委員がどういう係り方をして報告をしてくださいということまで書いてある。これは生涯学習課のみになっている。この中をある程度省いてもよいので、基本構想の各部署における目標設定の中で、生涯学習に係わるイベントが多くある。それを

ピックアップして、部署ごとに、どういう視点で社会教育委員の皆さんが関わってほしいか、それでどういうコメントをしてほしいかということ、を、足していただきたい。そうすると、もっと全体的なものが出るのではないか。

社会教育委員：区の役をやっていたときは、文化祭の仕切りや、神社の祭りなど、いろいろ係らせていただき、いろいろ仕切っていた役であった。区の役をやると、どうしても学校関係に行ったり、パイプ役になったりして、ところが、社会教育委員の立場になった時に、イベントリストが市から送られてきて、それで、感想を書いて報告をあげる。そこまではいいのだが、そこで止まってしまい、社会教育委員同士では共有が出来るが、今日も先ほどの現地視察で2か所を見て、素晴らしいな、良いなと感動して、社会教育委員という立場で、神社やお寺を見させていただき、委員の間では共有できるが、さてそれでいいのか、そこで止まってしまっていて、はたして社会教育委員の役割はこれでいいのだろうかと思ってしまう。市の生涯学習課として、教育委員会として、このことについて、イベントについて、教育委員の皆様にご意見をいただきたい。もう少し、このことに踏み込んでいかないと、自分の行きたいところに行つては、感想、報告書を出してということでもいいのかなという思いである。伊那市の良さ、すばらしさをもっと発信したければ、市役所のロビーなどを使って、いいところ10選などを並べて紹介するなど、何かしないと、社会教育委員会議の中でよかったと満足して、一年が終わってしまうと感ずる。

教育委員：今、お話をお聞きし、なるほどと思ったことがある。これまでも何回も報告書類を見させていただき、感動が伝わってくる、その都度そうであり、素晴らしいと思っていた。確かに言われるとおおり、その発表した中でとどまっていたのかなと、そのとおりである。市役所のロビーでとの発言があったが、これだけのものを、公に、皆さんに伝えていくようなことが何かできるとすれば、今のロビーもそうですが、毎月1回、市報がある。そのような所へコーナーを作って、伊那市の良さが伝わっていくわけであったり、例えば、ケーブルテレビさんなども、どのような活動をしているか一緒に回ってもらい、発信していただいたり、特集を組んでいただくことも良いと思う。このような素晴らしい活動をして、皆さんが発信している内容を知っていただくことは必要である。

社会教育委員：今までやっている中で、一番感ずるのは、数年前、長谷の中尾座等の再興ということで、私たち全員がある程度の役割を持ちながら、今も関わっている方もいるが、このような活動が一つでもあれば、社会教育として、ひとつやりがいがあるのかという気がするが、最近、そのような活動が少し見当たらないという気がする。

社会教育委員：情報を発信する場がひとつにはほしい。社会教育委員の10名と一緒に活動できる場が欲しい。もしあれば、それが活動として、何かやったな、ということになるのではないか。

教育委員：少し質問だが、要するにイベントがあると、そこにそれぞれが割り振られて、行かれているということなのか。

社会教育委員：そうではない。割り振られているわけではない。

教育委員：こういうイベントがあるとと言われて、興味をもてて学びたいというところに皆さん

行かれているということか。

社会教育委員：そのとおりである。

教育委員：それで、こういったレポートを出していただいているということか。

社会教育委員：そういうことである。

教育委員：たぶんだが、役をいただいて、社会教育委員ということで、自分は何をしたらいいのかということで、皆さんそれぞれに能力がありお願いされていると思うので、何かできないかという気持ちではなないかと思う。そこで、イベントがこのようにあります、行きたいところに行ってください、報告だけしてくださいと言われると、社会教育委員というのは、そういうことでいいのというもどかしさというか、そういうところで、もやもやしているのではないか。2年任期の中でいきなりやれと言われても厳しいと思うが、何かできないだろうか。

次長：事務局が口をはさんでいいのかなと思うが、議題で存在意義であるとか、役割とかということで、議論いただいているが、そもそもの部分に戻らせていただくと、社会教育法の中に、社会教育委員会議というものがある、職務の内容としては、一番には社会教育に関する計画の立案というか、そこに意見を言うことや、そのために研修をしていただくとか、そのようなことが職務の内容としては法律では書かれている。ただ、活動の中で基本構想を策定する時に何度も会議の中で意見をいただいて、本当に社会教育委員のご意見が、事務局としてはありがたかった。すごくお仕事はしていただいていると思っている。ただ、具体的な事業に係ることについては、今、議論をしていただいているところの、活動について何かまとめて市のホールで情報発信するとか、市報の一角を使うとか、そのようなことはやはり必要なことだと思われる。そういったことを含めて事務局側にご提案いただけるとたいへんありがたい。

課長：皆様から頂いているイベント報告だが、たまたま今、生涯学習課関連の事業が多いわけで、先ほど委員さんにご指摘いただいたように、もっと広く生涯学習基本構想に載っている事業のイベントに出かけてご助言いただければと思っている。今まで行っていただいたものには良かった点・問題点を書いていただいているので、公民館や美術館、博物館などには情報共有させていただいて改善できるところは、見直しており、委員の皆様が活動が活きている。ただ先ほどご指摘があったように、市全体の事業についてみると、反映されていない部分もあるので、もう少しこちらで幅を広げてご意見をいただける場を作っていければと思っている。

教育長：生涯学習基本構想に盛り込まれた内容に関わってという視点でのご発言があったのだが、委員の皆様のお取り組みいただいていることは、基本構想に盛り込まれた内容の具現に向けた取り組みを、どのように評価するかという、市民の皆様の、例えば、こういう生涯学習社会を作っていこうとしているところへの、皆様の評価が出ている。そうすると、このようにこの取り組みは、評価していただけているという意味でも、市民の皆様がどのようにそれをお返ししていくのか、事務局としては、それをやっていかなくてはいけない内容である。先ほどご発言があったが、市民の皆様は、この事柄に係わるある評価としては、こういう、とてもあたたかい言葉で、今、ちょうどおいで塾の

資料を見ているが、おいで塾に参加して、子供たちのためにやっただけの人たちにとっても応援歌であるし、あるいは、子どもたちにとっても、子どもたち頑張っているねと言ってくださっているわけであるし、そこに出しているお母さんや、お父さんたちにも、子どもたち、このように頑張っているよというような、そういう言葉であると思う。そうすると、市民の皆様具体的に伝える手段を、事務局で考えていく必要がある。いろんな、お伝え方法があると思う。そこはぜひ大事にしていきたい。

社会教育委員：基本方針の話が出たので、少し関連してですが、伊那市だけではありませんが、SDGsという言葉が使われているが、これからの生涯学習についても、そうだと思うが、今現在、行っているいろいろな行事の中でも、これからの少子化等を考えると、もうこれは続けられないだろう、いろいろ形を変えなくてはいけないのではないかと、いうものが多い。そのような視点が見られなかったと感じ、残念に思う。それについて、皆様、どのようにお考えかお聞きしたい。

いろいろ行事を見ると、様々な行事が重なっていて、子どもたちが出られないというものが多い。先日、行われた狼煙についても、文化祭にみんな出かけてそちらには誰も来られない。これからは、そのような行事が、さらに多くなるのではないかと、いう気がする。そのような中で、イベントのあり方等を、行政だけが進めていくのではなく、民間等いろいろなところが、同じような方向にもっていかなくては、ますます難しくなるのではないかと。数年前、優良な公民館の講演を聞いたが、その講演の内容をみると、うまくいっているところは、公民館単独で行っているところはどこもない。行政も入り、学校も入り、企業も入る。こういった協力体制があって初めてうまくいく、そのような報告ばかりであった。これからは、単独で行うということではなく、協力して行うということ、前面に押し出していく必要があると強く感じる。

社会教育委員：協力ということに関連してではないかもしれないが、街部以外に住んでいると、すべて生涯学習に関するものが、いなくて、図書館、防災センター、運動場など、同じような場所に固まっていて、さて、勉強をしたいと思っても、わざわざそこまでいかないといけない、夜などは遠慮したいとだんだんなってくる。そうすると、生涯学習の機会均等というものが、市民全体、そのようになっているのかと思う。例えば、防災センターとか、いなくてあるとか、こういう場所で行われている講座をひとつでも、街部以外に持ってくるとか、街部の講座を受けていた人たちも、街部以外の公民館へ来て、講座を学びましょうといった、市民があっちへ行ったり、こっちへ行ったりするような仕組みを作ってもらったりすると、先ほどは、子どもの話でしたが、大人たちもひとつの所へ固まらないで、そっちの地区の道を覚えたり、地区の様子を見たりしながら、何かが出来るとか、文化会館もそうだし、美術館であるとか、もう少し分散して建ててもらえればよかったと思うが、そういうわけにいかないから、そのようなものを、分散して行ってもらえるような仕組みを作ってもらえると、いいのではないかと。思う。

(2) 市民大学のあり方について

(係長から趣旨説明)

社会教育委員：市民大学の経験者であるが、その時は70数名の方がいて、講座の内容はあまり覚えていないが、楽しかったのは、学芸会のようにグループごとに出し物を行うとか、旅行もあり、そのようなことは楽しかった。自分がいたころは、募集の時も、担当の事務局の方が、学生に対してはがきをくれて、募集しているからどなたかいないか呼びかけてほしいと、熱心にやっていた。今の状況は分からないが、そのようなことは大事であると思う。再入学もできるようになったとのことで、自分たちの頃はできなかったが、再入学すれば人集めが出来るわけであるから、呼びかけの仕方を工夫された方がよいのではないか。本当に楽しかった。年に2回ぐらい忘年会等を行っていた。最初の頃は、戸倉山に登るとか、山に行ったりしたが、だんだんに足腰が弱くなってしまったが、集まって賑やかにやっていた。

社会教育委員：終わってみれば、最後に皆さんで出し物を出すとかを行っていた段階では、楽しかったと思うが、そのような話を聞いて躊躇してしまう人たちもいる。そんなことやるのかと思ってしまい、やってみれば楽しいのだが、前の段階で、そのようなことをやるのなら、やめておこうかなという人もいる。それから、班長とか文集委員とかやってくださる人がいるが、そういうのも、班長というものがあるのならと、しり込みをしてしまう。班で集まって班長を決める時にも、時間がかかり、私は働いているからとか、それぞれの立場があり、なかなか決まらない班もあった。確かに、班長になると大変であり、班長には感謝であるが、時間以外にも時間をとられている感じであり大変であったと思う。そこら辺のあり方とか、大変とってしまい、前の人たちから話を聞いて、二の足を踏む人たちもいるのかなと思う。終わってみればたいへん良かったと思う。

社会教育委員：年齢をこれだけ下げている。それで、講座内容は変わらない。年齢を幅広く考えたときに、ご年配の方の大学というイメージが払しょくされないといけないのかもしれない。だからといって、どんなものかと言われると分からないが、発表とか面白しろかった。自分たちが動いて、学んだこと、バスで入笠とか行ったが、そうやって自分たちの足で動いて学んできたことは、体験として残るので、そういうものも、年に一回ぐらいは入れてもらおうと入りやすいのかなと思う。講演を聞いているだけだと、となりでこっくりしている人も多かった。その辺を工夫して講座内容を考えてみてはどうか。2度目に入ろうと言っても、同じ内容だとどうかと思う。変えていくことは大事ではないか。

6 その他

・今後の会議等予定について

長野県社会教育研究大会 11月29日(木)

上伊那地区社会教育委員研修会 1月18日(火)

7 閉会(副会長)